

草加市倫理法人会(3月) モーニングセミナー報告

自分が変わる。
会社が良くなる。
不況に負けない。

三月五日(木) 第八九一回

◇ 講師 見付 春雄
三郷市倫理法人会 会長
(有)見付工務店 代表取締役
◇ テーマ 「おまえが居たから！」



青森の田舎で、ある女性に恋をした。それが原因で父親に勘当され、村から追われるように東京に二人で上京した。それが今の妻である。所持金2万7千円しかなく、飯場で住み込みで働く。自分は現場へ妻は食事の担当をして数年続く。飯場の人間は気が荒い、食事がまずいと妻は罵られる。その度に妻をかばい喧嘩もした。子供四人に恵まれたが、現場から現場や飯場の環境の悪さに気づき、子らは故郷の親に預け、盆と正月しか会えない寂しく辛い生活が続いた。卒業式では二人の娘が各教室をまわり、私達を自慢するように紹介してくれた。子供に寂しい思いをさせたことを痛感した。今では皆結婚し家業を手伝っててくれる。妻とはよく喧嘩もし、離婚の危機もあったが今でも「お前が居たから」と感謝している。これだと「心からありがとう」と感謝している。

高橋 茂行 記

三月十二日(木) 第八九二回

◇ 講師 畔高 敦司
(一社)倫理研究所 法人アドバイザー
(株)ミツワ堂 代表取締役 会長
◇ テーマ 「自分が変われば周りが変わる」



社長を息子に譲った直後は自分の我が強く、意見が対立して喧嘩が多かった。ある時妻から「あなた、倫理やっているんでしょ！」と言われ、ハッと気が付いた。それから息子の意見に賛同するように努めたら息子の方から相談をしてくれるようになった。それまでは妻にも息子に対する愚痴を言っていたが褒める話をするようになると妻も嬉しそうに聴いてくれて夫婦仲も良くなった。自分を変えるには朝を大事にすること。「朝」という字はバラすと「十月十日(とつきとおか)」子供と同じくらい大事なのだ。又、私は「一」にこだわる。何でも一番は人の脳裏に残る。山でも湖でも一番は誰でも知っているが二番を知っている人はなかなかいない。だから私は一にこだわり結果を出してきた。打つ手は無有限だ。

広沢 威 記

三月十九日(木) 第八九三回

◇ 講師 田淵 裕哉
(有)ティーシーグループ 代表取締役
◇ テーマ 「5次元で生きる究極の生き方」



私は証券会社勤務から自由になりたいと思い、三十九歳で起業した。優秀なスタッフのおかげで、数多くの社員研修、マナー研修の依頼をいただき開講している。研修では最初に自分の夢を絵に描いて頂き、そのためのマナーを経験することから始める。自律した自由、成功は成長と考え毎朝英語の勉強も続ける。ある時、夫婦で何も悪い事はしていないのに迫害を受けた。それはレベルの低い考えだと言われ、もっと次元を高くすることを心掛けた。外に幸せを求めるとはきりが無い(金、物)今最高の幸せを感じる事(ホスピティに生きる)小聖は森、大聖は町にある(現状)。五次元とは(ホーキング博士)時間の概念のない世界の事。永遠の世界は理解できない(神の世界)心の中で神に見られていると思えば誰から見ても恥じない生き方を行う。特に両親が亡くなってからは見られていると思えば、生き方が変わった。本当の自由が理解できるようになった。

太田 功 記

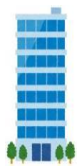
三月二十六日(木) 第八九四回

◇ DVD研修
◇ タイトル 「氣と骨」 ～歩み続ける人々～
★(一社)倫理研究所 参事 大久保あい子 編★



水戸での書道白寿展の様子から百一歳の御姿を拝見。今でも毎月八ヶ所へ、人世の為にひたむきにボランティア活動。満州から引き揚げ帰国後も困難な生活の中、四人の子に恵まれ倫理に出会い「子女名優」の通り、研究所の活動と四人の子どもの成長が符号連携していた。今は極楽、ありがたい。思い、願いは気づいたらすぐする、子供や孫に帰ってくる。耐えることは大好き。やるべき事は意地でもやり抜く。

★日本設計創始者 池田邦男 編★



海軍士官から建築家への人生。指揮官は先頭に立つ。戦争とは理不尽そのものだ。海に投げ出され死を待つ。自然を畏れ敬う。独立する時、経済界の三羽ガラスといわれた人達に応援を受け日本設計を創立。皆の為、人の為、社員一人一人が株主を考え、日本を何とかせねばならないという一心が建築家の原点。霞が関ビル、三井ビル等、わが国の超高層設計をリードした。

丸山 千代子 記